

令和6年(2024) 10月 『秋を迎えた松子田んぼ』

秋、稲刈り前の松子の田んぼでは、黒い穂をつけた緑米の姿が見られます。

無農薬で稲作をしている松子の田んぼには、いろいろな生物が見られます。黒い稲穂の間にさまざまなクモが網を張り、餌となる昆虫を捕まえようとしています。その中でもひととき大きなものが、黒と黄色のしま模様をしたナガコガネグモです。このクモは、巣の真ん中に頭を下にして止まっていますが、クモの下に白い帯のようなものが見られます。この白い帯は、「隠れ帯」と呼ばれ、クモの姿を隠すためだと思われてきました。最近の研究で、白い帯は紫外線を反射し、餌となる昆虫からは花のように見えるため、昆虫を惹きつける効果があることがわかってきました。

10月下旬には稲刈りをして、竹で組まれた「おだ」に刈り取った稲をかけて乾燥させます。松子の広場いっぱい、稲がかけられた「おだ」が広がる姿は、懐かしい日本の原風景といえます。

<問合せ先>

増田 090-8045-0606 吉田 090-5317-9738

Facebook「一宮ネイチャークラブ」で検索してください。

会員募集中！



